

記者発表資料

重点「道の駅」の選定について
～地方創生の核となる「道の駅」を重点的に応援します～

「道の駅」は、平成5年の制度創設以来、現在では全国で1040箇所(東北地方整備局管内144箇所)に広がり、地元の名物や観光資源を活かして、多くの人々を迎え、地域の雇用創出や経済の活性化、住民サービスの向上にも貢献しています。

国土交通省では、この「道の駅」を経済の好循環を地方に行き渡らせる成長戦略の強力なツールと位置づけ、関係機関と連携して特に優れた取組を選定し、重点的に応援する取組を実施します。

今般、有識者のご意見もいただき、選定対象を国土交通省として決定しましたのでお知らせします。

1. 東北地方整備局管内における選定結果

- 全国モデル「道の駅」 選定数 1駅
- 重点「道の駅」 選定数 5駅
- 重点「道の駅」候補 選定数 1駅

※全国の選定結果など詳細はホームページでも公表いたします。(<http://www.mlit.go.jp/road/Michi-no-Eki/>)

2. その他

- 後日、選定証を交付する場を開催する予定です(別途お知らせします)。

〈発表記者会: 青森県政記者会、岩手県政記者クラブ、宮城県政記者会、秋田県政記者会、山形県政記者クラブ、福島県政記者クラブ、東北電力記者会、東北専門記者会〉

問合せ先

国土交通省 東北地方整備局 TEL 022-225-2171 (代表)

道路部道路計画第一課長 よねざわ 米澤 あきお 明男 (内線4211)

道路部交通対策課長 かながせ 金ヶ瀬 みつまさ 光正 (内線4511)

重点「道の駅」制度の概要

- 全国各地で「道の駅」を地域活性化の拠点とする取組が進展しています。
- この動きを応援するため、国土交通省では、重点「道の駅」制度を創設し、優れた「道の駅」を関係機関と連携して重点支援する取組を実施します。



《重点「道の駅」に想定される機能》

地域外から活力を呼ぶ ゲートウェイ型

地域の観光総合窓口機能

地域全体の観光案内、宿泊予約窓口 等

インバウンド観光の促進

外国人案内所、免税店、無料公衆無線LAN、海外対応ATM 等

地方移住等の促進

地方移住のワンストップ窓口
ふるさと納税の情報提供 等

「道の駅」が
活力を呼び、雇用を創出、
地域の好循環へ



地域の元気を創る 地域センター型

地域の産業振興

地方特産品のブランド化、6次産業化 等

地域福祉の向上

診療所、役場機能、高齢者住宅 等

高度な防災機能

広域支援の後方支援拠点、防災教育 等



全国モデル「道の駅」

国土交通大臣選定

地域活性化の拠点として、特に優れた機能を継続的に
発揮していると認められるもの

全国的なモデルとして成果を広く周知するとともに、
さらなる機能発揮を重点支援

重点「道の駅」

国土交通大臣選定

地域活性化の拠点となる優れた企画があり、今後の重点支援
で効果的な取組が期待できるもの

取組を広く周知するとともに、取組の実現に向けて、
関係機関が連携し、重点支援

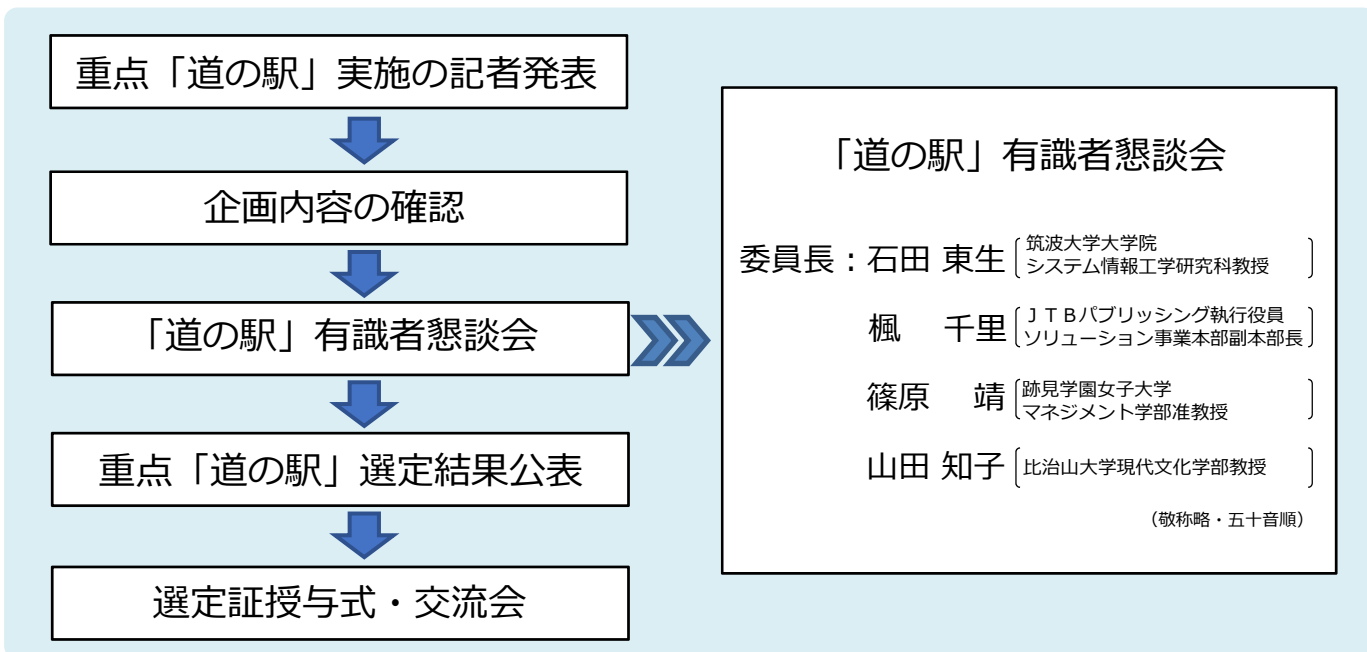
重点「道の駅」候補

地方整備局長等選定

地域活性化の拠点となる企画の具体化に向け、地域での意欲的
な取組が期待できるもの

関係機関が連携し、企画検討等を支援

(選定の流れ)



(参考資料)

「道の駅」の目的と機能

「道の駅」の目的

- 道路利用者への安全で快適な道路交通環境の提供
- 地域の振興に寄与

「道の駅」の機能

休憩機能

- 24時間、無料で利用できる駐車場・トイレ

情報発信機能

- 道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報などを提供

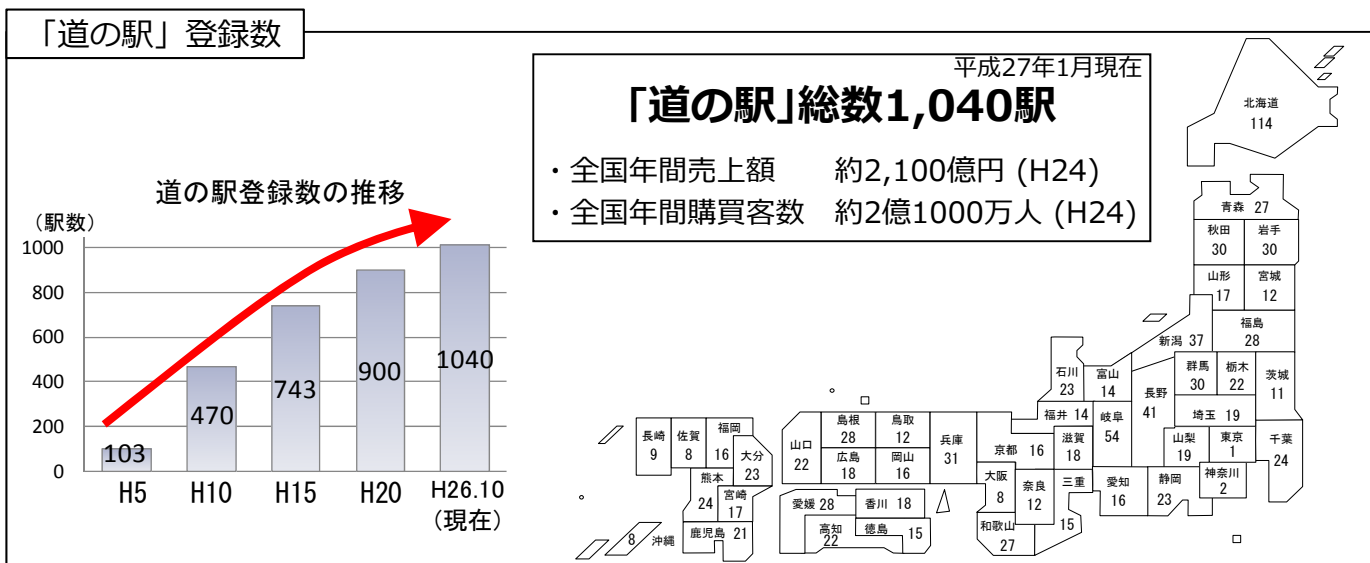
地域連携機能

- 文化教養施設、観光レクリエーション施設などの地域振興施設

「道の駅」の基本コンセプト

地域とともに作る
個性豊かな
にぎわいの場

休憩機能
情報発信機能
地域連携機能



東北地方整備局管内の重点「道の駅」一覧

全国モデル「道の駅」(国土交通大臣選定)

全国的なモデルとして成果を広く周知するとともに、さらなる機能発揮を重点支援

- ・ 岩手県遠野市 道の駅「遠野風の丘」
とお の かせ おか

重点「道の駅」(国土交通大臣選定)

取組を広く周知するとともに、取組の実現に向けて、関係機関が連携し重点支援

- ・ 岩手県陸前高田市 道の駅「高田松原」
たか た まつ ぼら
- ・ 宮城県大崎市 道の駅「あ・ら・伊達な道の駅」
だ て
- ・ 秋田県にかほ市 道の駅「象潟」
きさ かた
- ・ 山形県米沢市 道の駅「よねざわ（仮称）」
- ・ 福島県猪苗代町 道の駅「いなわしろ（仮称）」

重点「道の駅」候補(東北地方整備局長選定)

関係機関が連携し、企画検討等を支援

- ・ 青森県七戸町 道の駅「しちのへ」

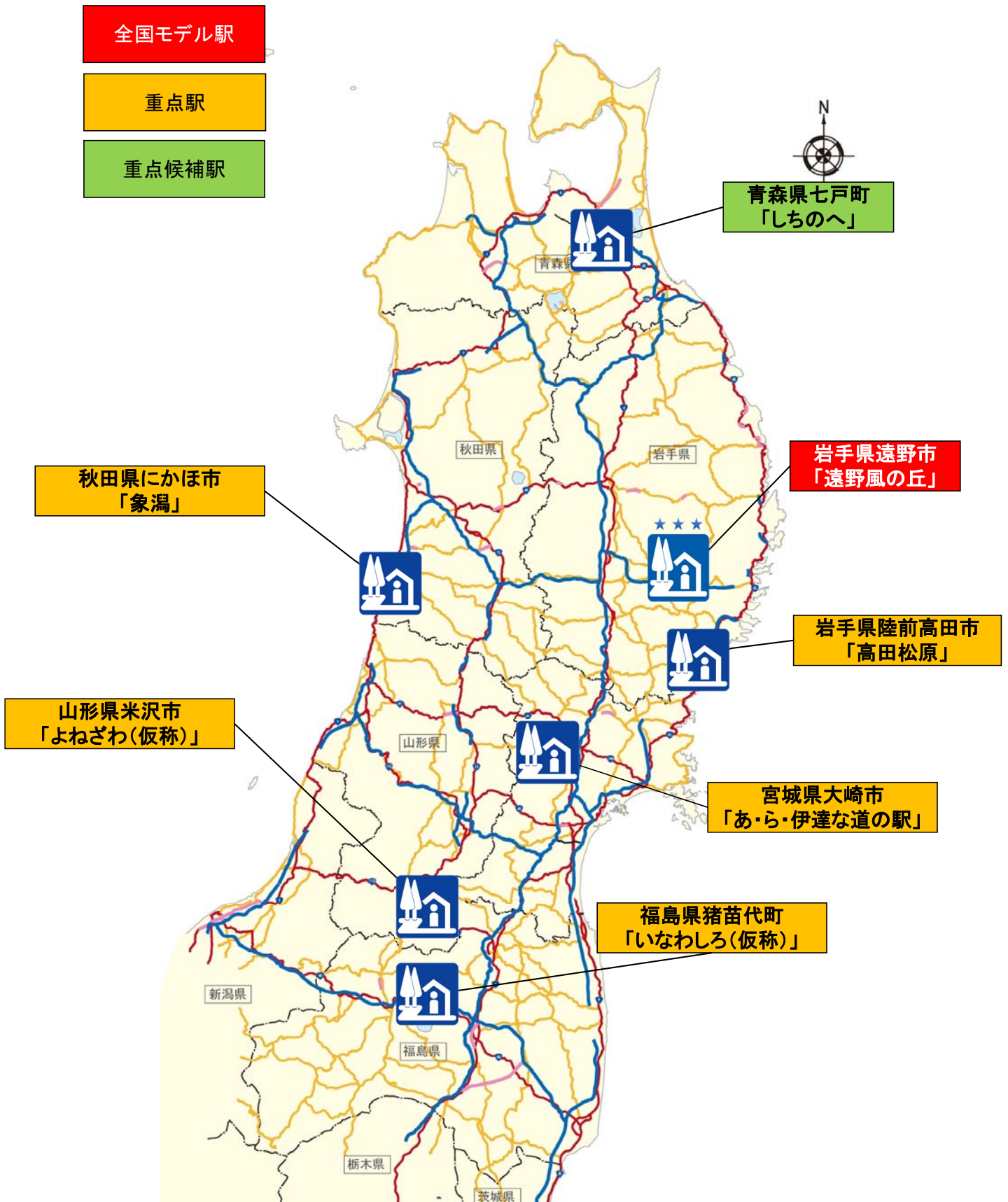
東北地方整備局管内の重点「道の駅」位置図

東北地方整備局管内路線

全国モデル駅

重点駅

重点候補駅





- 東日本震災時には、自衛隊・救急隊の支援拠点として機能を発揮。これを受けて、岩手県広域防災拠点配置計画の広域防災拠点に位置づけられ、**ベースキャンプ、備蓄等の高度な防災機能を分担。**
- 復興に向け、**沿岸被災地の海産物の販売所を新設**、岩手県内「道の駅」の共通販売商品を開発。
- スタッフが常駐する観光案内所は、沿岸地域の**復興情報、観光情報に加え、ふるさと納税や移住促進にも活用。**

年間利用者： 約100万人 販売額： 約6億円 雇用： 131名



道の駅「遠野風の丘」

岩手県遠野市

〔人口 約2万9千人〕
〔面積 約830km²〕

国道283号（一体型）



防災の拠点

東日本大震災では、復旧、救援に向かう自衛隊・消防隊やボランティアの方々の後方支援拠点として機能



震災時の中継拠点として活用

産業振興の拠点

沿岸被災地の海産物を販売する鮮魚店を開設し、被災地の復興を支援



大船渡市の水産加工業（鎌田水産）が出店

遠野風の丘が中心となり、岩手県内の「道の駅」共通の新品を開発。



岩手県内道の駅30駅が共同開発

観光や地方移住等 総合案内拠点

観光案内所では、沿岸地域の観光復興に向け情報を発信
ふるさと納税制度の紹介、納税者には、「道の駅」の特産品を提供



専任配置のインフォメーションコーナー



地元の野菜・土産を扱う物産ホール



イベントによる地域交流



津波被害を後世に伝える震災伝承コーナー



被災地企業の販路拡大等支援



道の駅「遠野風の丘」



- 東日本大震災による津波で被災したタピック45(旧道の駅)の遺構を保存しつつ震災伝承・地域復興の核として発展的に再生。
- 三陸沿岸地域のゲートウェイとして震災の実情と教訓を国内・海外に向けて発信。

<地方創生拠点としての機能>

ゲートウェイ型

- 被災地をつなぎ震災の実情と教訓を伝承
- 津波防災文化の情報発信

震災の実情

震災遺構
【たろう観光ホテル】



“如何にして生きのびたか”
を国内外に情報発信

震災の教訓

津波防災文化
【先人の教えが多くの命をすくった】
【津波てんでんこ】



○肉親にかまわず、てんでんばらばらに高台へ

三陸沿岸地域のゲートウェイ
(国内・海外・修学旅行)

観光総合案内
三陸沿岸地域のゲートウェイ

インバウンド観光
海外への復興メッセージ

防災
震災伝承・津波防災文化

実物(震災遺構等)や実写を効果的活用

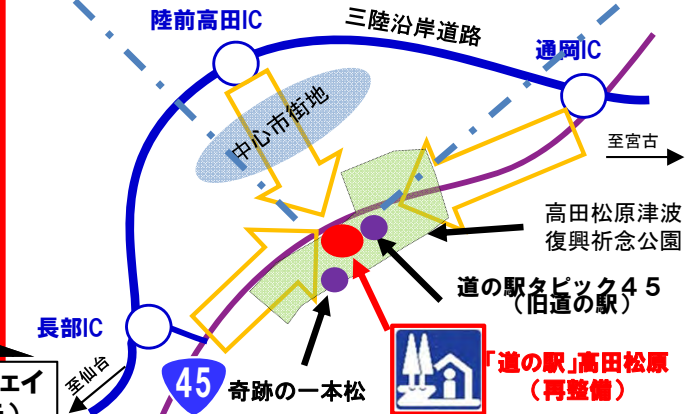


※内壁が破損



被災後のタピック45内部

復興道路(三陸沿岸道路)から震災遺構にアクセス



駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
高田松原	岩手県	陸前高田市	国道45号	既設	平成5年	一体型



高田松原津波復興祈念公園 計画区域

津波浸水したタピック45

※3人が屋根に避難し助かった

奇跡の一本松

タピック45(旧道の駅)

被災した道の駅「高田松原」(再整備)

<提案の先駆性・ポイント>

- 震災遺構となったタピック45(旧道の駅)を、高田松原津波復興祈念公園と連携して再生し、復興・震災伝承のための地域資源として活用、新たな拠点を形成。
- 三陸沿岸地域の震災遺構巡りや道路情報・気象情報等の広域案内機能を備えた、地域全体のゲートウェイとして周遊を推進(岩手県・三陸沿岸地域7市4町3村・国交省が連携)。
- 被災の実情や災害の規模等を伝承するために実物(震災遺構等)や実写を効果的に活用。

<実施内容>

- 「道の駅」遺構を保存し高田松原津波復興祈念公園と一体的に整備。
- 岩手県・陸前高田市と連携し津波の実情・災害の規模、津波防災文化を国内外に情報発信する拠点を整備。
- 津波防災教育の拠点となる機能を具備。
- 三陸沿岸地域の震災の実情と教訓を伝承するゲートウェイとして情報発信機能を整備

被災の実情や災害の規模を伝承

- 地域資源(伊達政宗の史実・文化等)を地域在住外国人や語り部等を活用しインバウンド観光を促進する観光拠点を構築。
- 「道の駅」と岩出山地区(町内)・温泉を結ぶ周遊交通を確保。温泉・地域資源をパッケージ化した独自観光商品を開発・販売
- 鳴子峡や温泉郷を「見る観光」に、地域の文化・芸能を「知る観光」を組み込み、一段高いレベルの観光を提供。

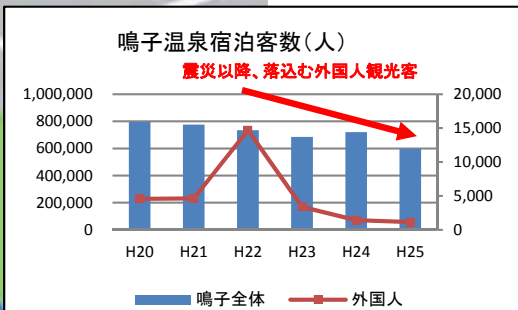
<地方創生拠点としての機能>

ゲートウェイ型

観光総合案内
地域の歴史・伝統と温泉の魅力発信

地域福祉
高齢者の活力創出

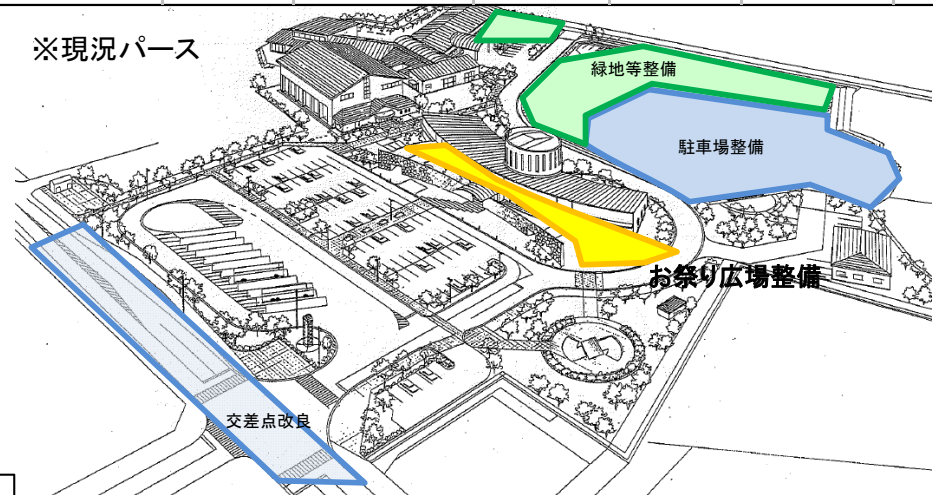
防災
県北横軸の防災拠点



宮城県観光統計資料(大崎市調査)

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
あ・ら・伊達な道の駅	宮城県	大崎市	国道47号	既設	平成13年	一体型

※現況パース



<実施内容>

- 外国人案内所登録を実施し地域在住外国人や語り部による伊達藩の文化・史実を外国人等に観光案内する「いきな昔話ツアー」を商品化
- 既存コミュニティ交通を観光周遊ルート上を運行させ、住民と観光客が乗りできる交通手段を提供
- 駐車場拡張、交差点改良、駐車場案内システムによる駐車動線最適化
- 防災機能の追加(発電機、受水槽、物資保管庫)

<提案の先駆性・ポイント>

- 地域の史実・文化(知的好奇心)に基づく観光ルートの創設
- 地域在住の人的資源(外国人、語り部)を活用した多様な観光案内
- 「道の駅」、地域、著名観光地の周遊をパッケージ化した地域独自の観光商品

- 「鳥海山」・名勝「九十九島」・「岩がき」等の資源を有する「道の駅」象潟に情報発信拠点、交通結節点を整備しゲートウェイ化。
- 環鳥海の6駅が連携し、周遊交通を確保した上で鳥海山・特産品を活かした広域周遊観光圏を形成。
- 環鳥海地域の観光情報ワンストップサービスと各駅の個性(独自商品)を活かした周遊観光の活性化を推進。

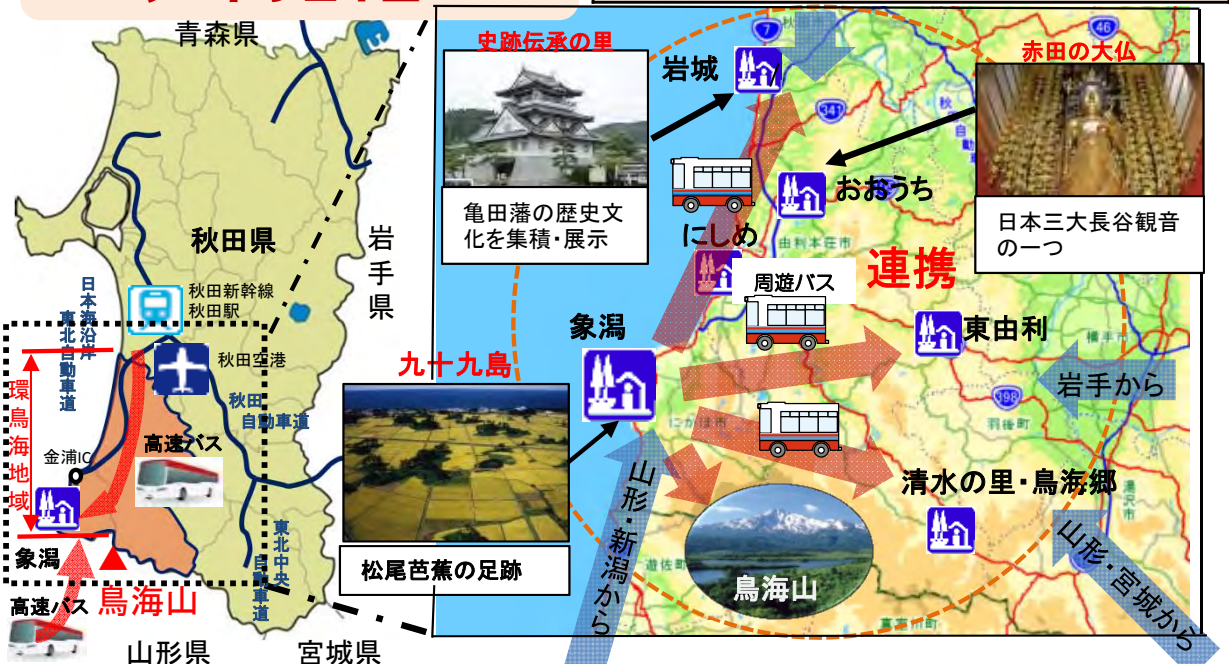
<地方創生拠点としての機能>

ゲートウェイ型

観光総合案内
6駅連携による環鳥海地域、そして秋田のゲートウェイ

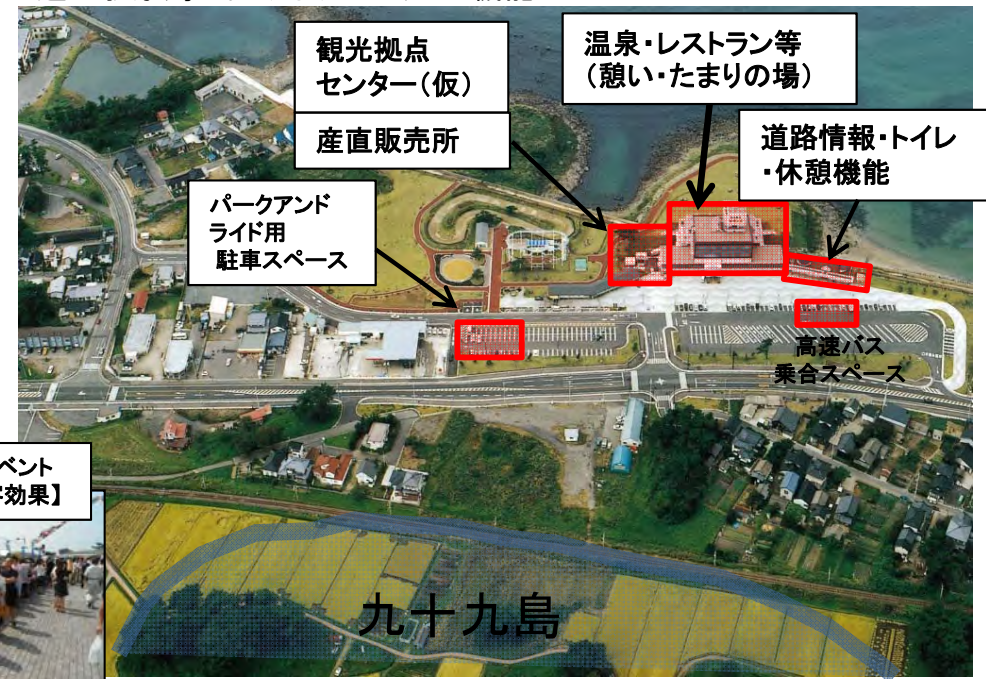
インバウンド観光
環鳥海地域の海外への魅力発信

産業振興
鳥海山の恵みを6次産業化・観光資源化

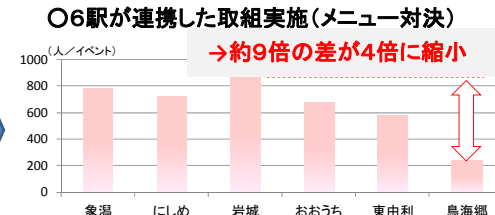


駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
象潟	秋田県	にかほ市	国道7号	既設	平成9年	一体型

<道の駅象潟におけるゲートウェイ機能>



【6駅連携の効果】



<提案の先駆性・ポイント>

- 環鳥海地域のゲートウェイとしてワンストップで総合観光情報の発信
- 二次交通・周遊交通の拠点化を図り、パーク&ライド等による結節点の構築
- 地域内の6駅連携による個性を活かした駅間交流と、周遊による活性化
- 各駅独自の6次産業化等の展開と競争による活性化

<実施内容>

- 観光拠点センターを整備し環鳥海広域観光情報発信
- 空港・新幹線駅から「道の駅」への高速バスやレンタカーなどの交通手段を提供。パーク&ライドを導入し、地域内のコミュニティ交通に乗り換え「道の駅」や「地域内観光名所」を周遊できるミニ周遊観光を提供する。
- 6次産業化に向け、既存加工場(2駅)を活用した6駅連携による商品開発

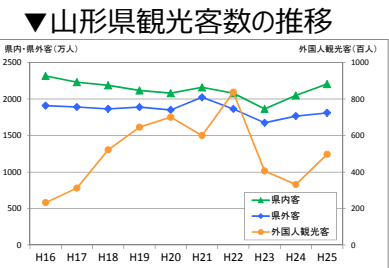
- 国際交流協会等の関係機関と連携を図り、観光総合窓口を開設。県全域周遊観光のゲートウェイとして国内外に広く情報発信。
- 地理的優位性を活かし東京・福島方面からの観光客をターゲットに高速道路・高速バスと連携した交通結節点(P&R)を構築。
- 県全域のインバウンド対応を始めとした多様な特産品や体験型観光の情報を含む複数の観光ルートを提供する拠点。

＜地方創生拠点としての機能＞
ゲートウェイ型

観光総合窓口
山形県の南の玄関口における観光拠点

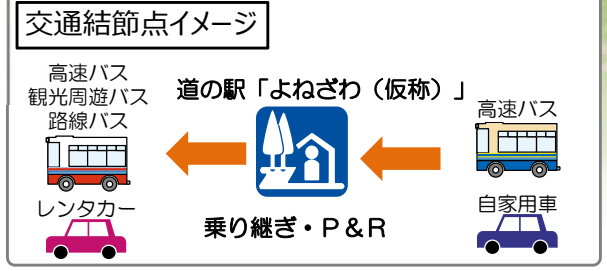
インバウンド観光
新たな需要創出

産業振興
体験型観光と地域特産品に発信



外国人観光客は震災で半減
道の駅を拠点に震災前水準に戻りつつある国内客に加えて外国客を増やし、観光客全体の増加を目指す

出典：県内客、県外客・・・山形県観光者数調査
外国人観光客・・・外国人旅行者山形県受入実績調査



駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
よねざわ(仮称)	山形県	米沢市	(主)米沢高島線	新設	平成29年度(予定)	一体型



道の駅「よねざわ(仮称)」
東北中央道と連携し、県内全域の観光拠点となるゲートウェイとして機能

＜提案の先駆性・ポイント＞

- 山形県全域の周遊観光を支援するため、県内全域の情報発信だけでなく、宿泊施設や交通機関の予約が可能な観光総合窓口の設置
- 高速バス、観光周遊バス、路線バスの停留所やカーシェアスペースを設置し、地域内と地域外の総合的な交通結節点として機能

＜実施内容＞

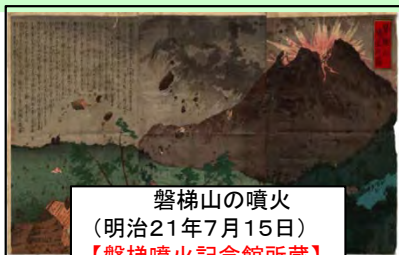
- 「高速バスからレンタカー」「自家用車から観光周遊バス」に乗り継ぐ、パーク&ライド施設を整備
- 外国人観光客にも対応した山形県全域をカバーする観光総合窓口を設置
- 特産品の展示施設・地域イベント体験施設や農産物加工施設の設置

※イメージ図のため、今後変更あり

- 火山噴火(有史以来4回)や豪雪・地震等のあらゆる災害リスクを抱える磐梯山の麓に総合防災拠点として整備。
- 緊急時には、観光客及び地域住民への緊急避難機能(避難所、ヘリポート、モータープール)・情報発信基地として機能。
- 平時は野菜ソムリエの育成や特産品のブランド化により賑わいの場を創出。併せて、災害時の食料確保を図る。

<地方創生拠点としての機能>

地域センター型



磐梯山の噴火
(明治21年7月15日)
【磐梯噴火記念館所蔵】

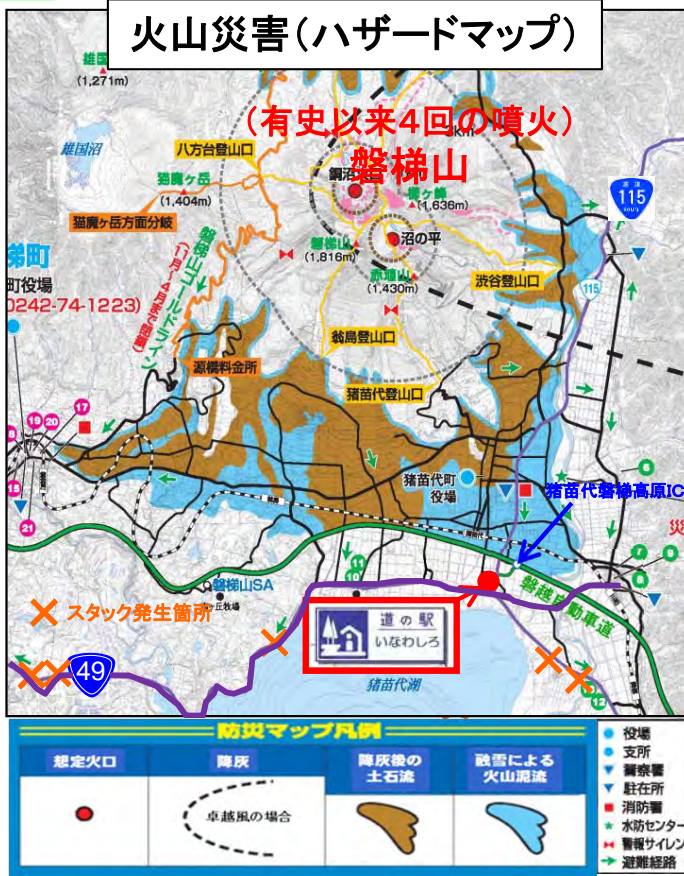


積雪障害



地域の特産品

▲ブランド化を目指すキャベツ

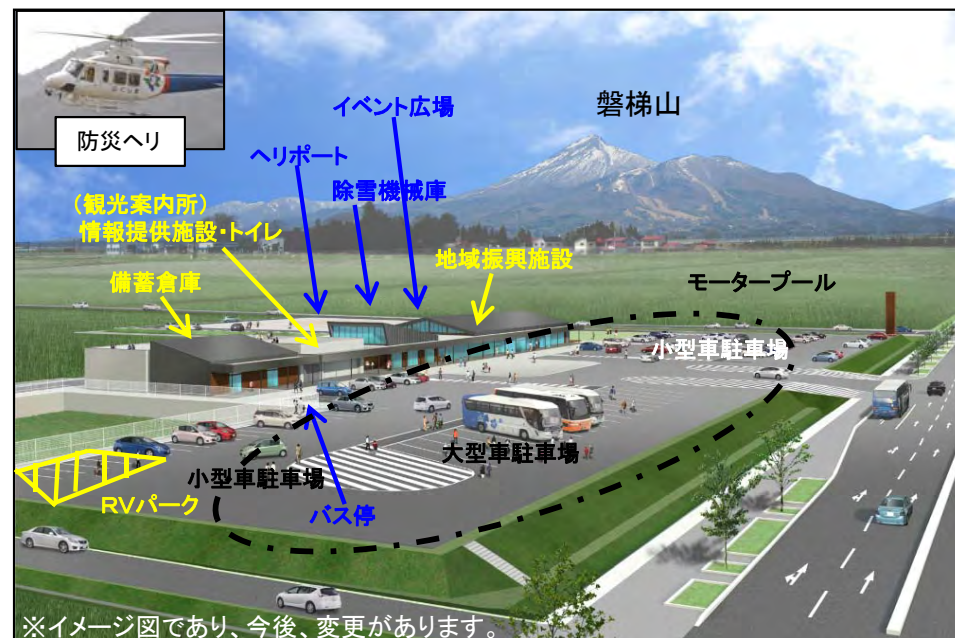


防 災
火山・豪雪・地震等に対応

観光総合案内
周辺観光所化と観光周遊の拠点化

地域経済活性化
農産物の高付加価値化と6次産業化

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
いなわしろ(仮称)	福島県	猪苗代町	国道115号	新設	平成28年	一体型



<実施内容>

- 火山災害時の地域住民の避難スペースや、豪雪による通行止め時の待避車両の駐車スペースを備える大規模な総合防災拠点を整備。完成後は、災害パターンごとの避難訓練を実施。
- 観光コンシェルジュを配置した地域の観光案内所を整備し、案内誘導ワンストップサービスを実施。観光地巡りを商品化し、周遊バスを活用した地域観光ルートを企画。RVパークを整備
- 「いなわしろブランド」の立ち上げ、6次化産品コンテスト、軽トラ市を実施

<提案の先駆性・ポイント>

- 国道49号、国道115号、磐越道における火山災害・豪雪・地震時のモータープール機能や緊急時の救難ヘリポート機能を確保
- 野菜ソムリエ等の育成・雇用をはかり「いなわしろブランド」を確立。出張販売を導入。緊急時の食料確保も担う。
- 観光協会と連携し、地域内周遊観光商品(グリーンツーリズム)の開発・販売。水道、電源を備えたRVパーク(キャンピングカー宿泊)等の整備

- 観光者(外国人を含む)に特産品の「調理講習」「和食レシピ」「体験農業」と「観光資源(温泉)」をパッケージとした観光商品提供。
- 電気バスを活用し、P&Rを導入した地域内周遊観光を確立。総合的な観光振興策により観光の活性化を図る。
- 体験農業参加者に、新規就農の補助・研修情報を提供し、農業後継者を確保して人口減少等の地域課題の解決を図る。

<地方創生拠点としての機能>

地域センター型

特産品を活かしたインバウンド観光の拠点を構築

地域在住外国人(体験農業の状況)



外国人対応の観光周遊パッケージ商品

▼特産品(長芋・にんにく)を活用

▼調理講習(NPO)



▼体験農業



▼地域の観光資源

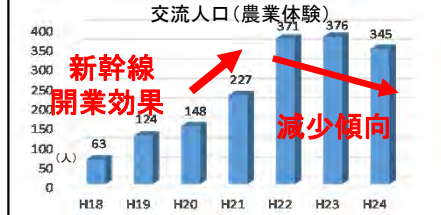
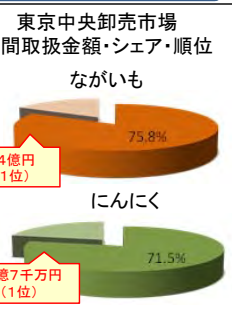


観光総合窓口「道の駅」
インバウンド観光活性化に向け情報発信

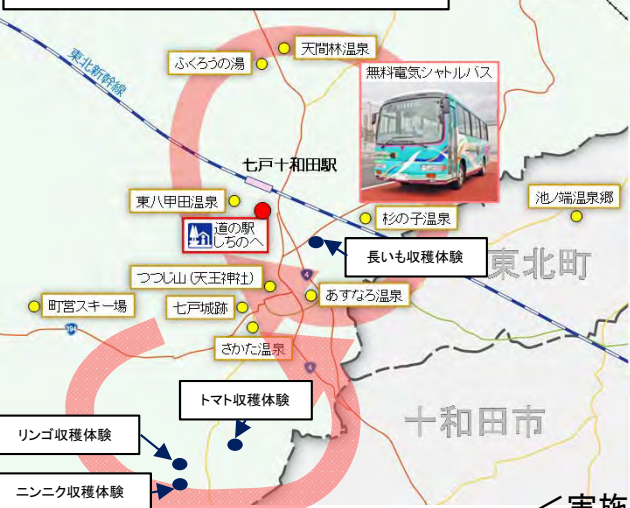
農業振興「道の駅」
農業振興に向けた総合案内窓口

防災「道の駅」
地域防災拠点の構築

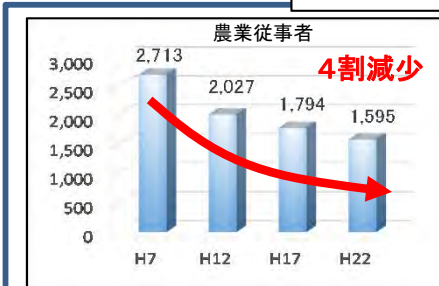
七戸町の特産品



周遊交通(電気バス)を活用した観光周遊



駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
しちのへ	青森県	七戸町	国道4号	既設	平成5年	一体型



○新規就農者支援

- ・青年就農給付金(補助)
- ・青年等新規就農者相談会

<提案の先駆性・ポイント>

- 観光者(在住外国人)に向け特産品を活用し「和食の調理講習」「体験農業」と「地域資源(温泉等)」をパッケージとした観光周遊商品を開発・販売。
- 「道の駅」を拠点とし地域内周遊観光に向け電気バスを運行・P&Rを導入。
- 体験農業参加者に新規就農者への補助・研修等の情報提供し後継者確保。

<実施内容>

- 観光情報センターを整備しインバウンド観光の体制を構築
- NPOと連携の上、「道の駅」を活用した外国人向けの「和食調理講習」「体験農業」「地域観光資源」をパッケージとした観光商品の開発・販売。
- 周遊交通(電気バス)を活用し、駐車場拡張とともにP&Rを導入し、地域内の周遊観光を確立。
- 同センターにおいて、新規就農者への総合情報案内所を開設。